

D T Mー第 1 回

この講座では、D T Mというものに初めて触れる方々を対象とした説明をします。そのため、かなりの長文になる可能性があります、ご了承ください。

この講座は全 8 回を予定しています。スケジュールはこちらです。

第 1 回：D T Mとは何か、及びこの講座で使用する FL studio について

第 2 回：F Lの基本的な使い方 1（音の打ち込み方）

第 3 回：F Lの基本的な使い方 2（ミキサーとエフェクトのかけ方）

第 4 回：いろいろな音源を使ってみる（シンセサイザー込み）

第 5 回：演習 1

第 6 回：音楽理論 1（スケール、協和音等）

第 7 回：音楽理論 2（コード進行、メロディラインの構想）

第 8 回：サンプリングの仕方、曲作りの流れ、演習 2

こんな感じです。

全課程終了後、外部曲、効果音公募等に挑戦していてもいいのではないのでしょうか。

あ、一つ大事なことを。

メイン講師は音楽理論とか全く考慮せず曲作りしていました。

なので、過度な期待はしないでください←

ネットとかのD T Mサイトも結構あるのでそちらも参照されたし。

でもレジュメ頑張りました。

第1回 - DTMとは？

第1章 - 準備

曲を作る、ということ。楽器を集め、演奏し、それを編集する。
至極当然な流れであると思います。曲って音の集合みたいなものですから。
この一連の流れ、このすべてをPC上で済ませてしまおう。
D e s k T o p M u s i cはこうしてできたのだと思います。
では、実際にDTMに触れる為に必要なものってなんでしょう？
最低限必要なものを挙げておきます。

- 1 : PC (主役です)
- 2 : DAWソフト (これも主役です)
- 3 : スピーカー、またはヘッドフォン (イヤフォン可)

この3点は最低でも必要になります。2のDAWソフトについては後述しますが、FLのような作曲ソフト、とでも思ってください。こちらはサークルの備品をインストールしてもらうので心配いりません。

PCも大丈夫でしょう。大学生活に必要不可欠な代物なのであると思います。

問題はスピーカー、ヘッドフォンです。これはメーカーによって音質が多種多様、値段もピンキリなので、まずこの講座中ではPC付属のスピーカーまたはお手持ちのヘッドフォン (イヤフォン) で構いません。

この講座を修了し、作曲に身を投げたいとお思いになれば、多少高価なヘッドフォン等を購入されても良いんじゃないでしょうか。

さて、必需品をそろえました。次は、あると便利なものです。

- 1 : M I D I キーボード

これは、便利だと聞きます。実際に鍵盤で弾いたものがそのままDAWの方に入力されます。

2 : 録音機器

曲を作っていると、だんだん歌詞とボーカルをつけたくくなります。

昨今ではボーカロイドの普及により、手を出すのも良いですが、個人で好き嫌いがあるので注意。

また、生の演奏を録音し、DAW上で編集するなんてこともできます。

こんなものでしょう。他にも挙げていたらキリがないのでこのへんで。

第2章 - DAWって何?

DAWっていうもの、初めて聞く人もいるかと思います。

D i g i t a l A u d i o W o r k s t a t i o n の略…

「デジタルなオーディオの仕事場」ですよ。

その名の通りで、要はPC上で音の打ち込みから編集までできちゃうすごいソフトのこと。もちろん、録音も（機材があれば）可能。

このソフトを用いてPC上で作曲等をするもの全般に（広い意味で）DTMと言ったりします。

かなりの種類があり、ここで全て紹介するのは不可能なので、とりあえず著名なものを紹介します。

1 : Cubase

DTM世界ではかなり有名。最新版はCubase 6。WindowsでもMacでも使える。

DTM界に衝撃をもたらしたやつ。なにせDAWの基礎部分を確立したDAWのご先祖みたいな存在。ちなみにお値段は3万~6万、高いものは10万を超える。ただ、ちょっと初心者には敷居が高い。

2 : SONAR

これも有名。ただし、Windows専用。上級者向け。操作がちょっと難しい。

作曲に必要なピアノロール、譜面打ち込み等に加えてステップシーケンサーも有する。（各語句は追々解説します）また、限定的な動画編集機能も有する。最新版はSONAR X1。お値段はそれほどでもなく、高くても8万。

3 : FL studio

有名。今回の講座の主演。慣れるとすごく扱いやすい。Windows 専用。
音源がいっぱいある。ちなみにダンスミュージック系統、トランス系統が得意。
一度製品を購入すると、一生アップデートが無料になるオマケ付き。最新版 FL studio 10。お値段は高くても5万を切る。
ただし、要英語力なので英語苦手だとちょっと苦労するかも。

ここで紹介したのは、ほんの一握りです。

ほとんどが有料（しかも結構な値）ではありますが、中には無料のものもあります。ただし、無料のものはお勧めしませんが、あくまでも「無料」なので、利便性にかかけたり、フリーズが多発したりと悪い面が目立つのです。
では、FLについて触れていきましょう。

第3章 - FLちゃんときゃっきゃウフフ

講師は病気です。本当にありがとうございますm(ry

FLのインストールは完了していますか？

まだって方は早急にインストールをしてくださいまし。



FLを起動してすぐの画面です。これをもとに説明をします。

まず、①ってところを見てください。

ここが「**メニュー**」になります。ここで、ファイルを開いたり、保存したり、新規にファイルを作ったり、はたまた実際に曲を再生したり、BPMを変えてみたりと、かなりお世話になるところです。よくよく覚えておきましょう。

このメニュー画面の説明は後ほど詳しくやります。

次に②を見てみましょう。

ここは、「**ブラウザー**」と言い、**音源やエフェクター**がいっぱい置いてあります。ここから構想に合う音源を選別し、④のところにインサートして打ち込みを始めます。

③は「**ミキサー**」と言って、④にインサートした音源にエフェクトをかけたりするところです。

ここは、音の編集の話、第3回目以降に詳しくお話します。

④が②から持ってきた音源を入れて、実際に音符（ノート）を入れたりする場所で、「**チャンネルウインドウ**」と言います。

第2回目から、②と一緒に使っていきます。

⑤は「**プレイリスト**」と言います。

「いっぱい音源使うけど、ちょっとしか出番ないのがいくつか…」みたいな時、1つのパターンに全てぶっこんだら、えらいこっちゃになります。

そこで、出番がちょっとしかないやつらをメインのパターンから外し、別のパターンに移し、出番が来たときだけ活躍してもらうようにします。

これも、第2回目から使っていきます。

⑥：FL-CHAN

初音ミクの存在。歌ってくれないけど踊ってくれたりする。

背景を変えることもできたりする。

簡単な画面の説明はこのへんで。

まだまだいっぱいウインドウが出てきますので、その都度ご説明申し上げますのでご安心を。

それでは、メニュー画面について説明します。



まず、①のところ

「FILE」とか「EDIT」とかありますね。

ここで、**曲のファイル管理や、音源、拍子、と言った曲に関する設定**をいじったりします。また、やたら長いノーツをコピペしたいときにも EDIT → COPY → PASTE でできたりします。

拍子変化は TOOL → general setting から変更できます。

②のところ。ここはおもにショートカットと考えてもらっていいです。

①のメニューの中からいちいち探すのがだるい人向けです。あまり使わない。

③のところは、音を打ち込んでいるときに使うツール、とってください。

どんなにディスプレイが広くても、せいぜい10小節が限界、ノートPCなら7~8小節分表示するのでやっとなのでしょう。しかし、曲は数十小節、百数十小節を相手にします。

できた曲を試聴する際、**小節線が画面外に出た時、自動でスクロール**してくれるのが、③と書かれているすぐ左の「⇒」ってあるやつです。

また、**メトロノーム**も付属しています。一番左下にある、振り子のようなアイコン、これがメトロノームです。

この2つは非常によく使うので覚えておきましょう。

④のところですか。左側から順番にいきます。



まず「PAT」と「SONG」とあるのを確認してください。起動したばかりだと「PAT」にオレンジ色のランプがついていると思います。

これは、音を再生したとき、今いじっているパターンを再生するか、プレイリストごと再生するか、の違いが出てきます。

1つのパターンだけで作っている場合は気にしなくてもいいですが、複数のパターンを用意した場合はここを使うので覚えておいてください。

その下、つまみが左端にあるやつ。これは、動画とかでのシークバーと同じです。つまみをクリック&左右ドラッグすると小節線を大胆に動かせます。

次にそのうえ、▶と・とあると思いますが、これらは見た目どおりです。再生と停止です。ただし、**停止ボタンを押すと曲の最初まで戻されます**から、一時停止したい場合は再生ボタンをクリックしましょう。

その隣、「140.000」とあるのは **BPM** のことです。

Beat Per Minutes つまり一分間に四分音符を何個ビートするか、いわゆる「**テンポ**」のことです。ここにカーソルを合わせると、カーソルが上下矢印になるので、ドラッグすることでBPMの上げ下げができます。

さらにその隣、「PAT」とあるのは、今現在のパターンのこと。これは次回にやります。

さらにさらにその隣、モニターみたいなもの。これは、今鳴っている音の波を表示してくれます。また、ステレオにこだわる場合、右側の音のレベルと左側の音のレベルが棒グラフっぽく出てきます。

そして大事な一番右側の5個のアイコン。



左側から

「プレイリスト」、「チャンネルウインドウ」、「ピアノロール」、「ブラウザー」、
「ミキサー」です。

ここをクリックするたびに各ウインドウを出したり消したりできます。

では、最後に⑤のところ、これはその曲の「現在の」演奏時間、と、現在 CPU
にかかっている負荷の表示です。

CPU ロードが99を超えると、赤くなってデレデレします。もうちょっと行きすぎた愛情を注ぐとしばらくフリーズします。あまり負担はかけすぎないようにしましょうね。(経験者談)

さて、とりあえず一通り画面の説明をやりました。

次回からは早速音を打ち込んでみたいと思います。

ぜひ、FLちゃんとかいろいろなところをクリックしたりして「FLってというのが
どういったものか」感じてみてください。